

大阪府 枚方市

マイカタちゃいます ひらかた でんねん

単元配列表ちゃいます コンパス でんねん

枚方市の成果報告



枚方市教育委員会事務局 児童生徒課
支援教育課
教育研修課
教育指導課

私立保育幼稚園課
公立保育幼稚園課

枚方市



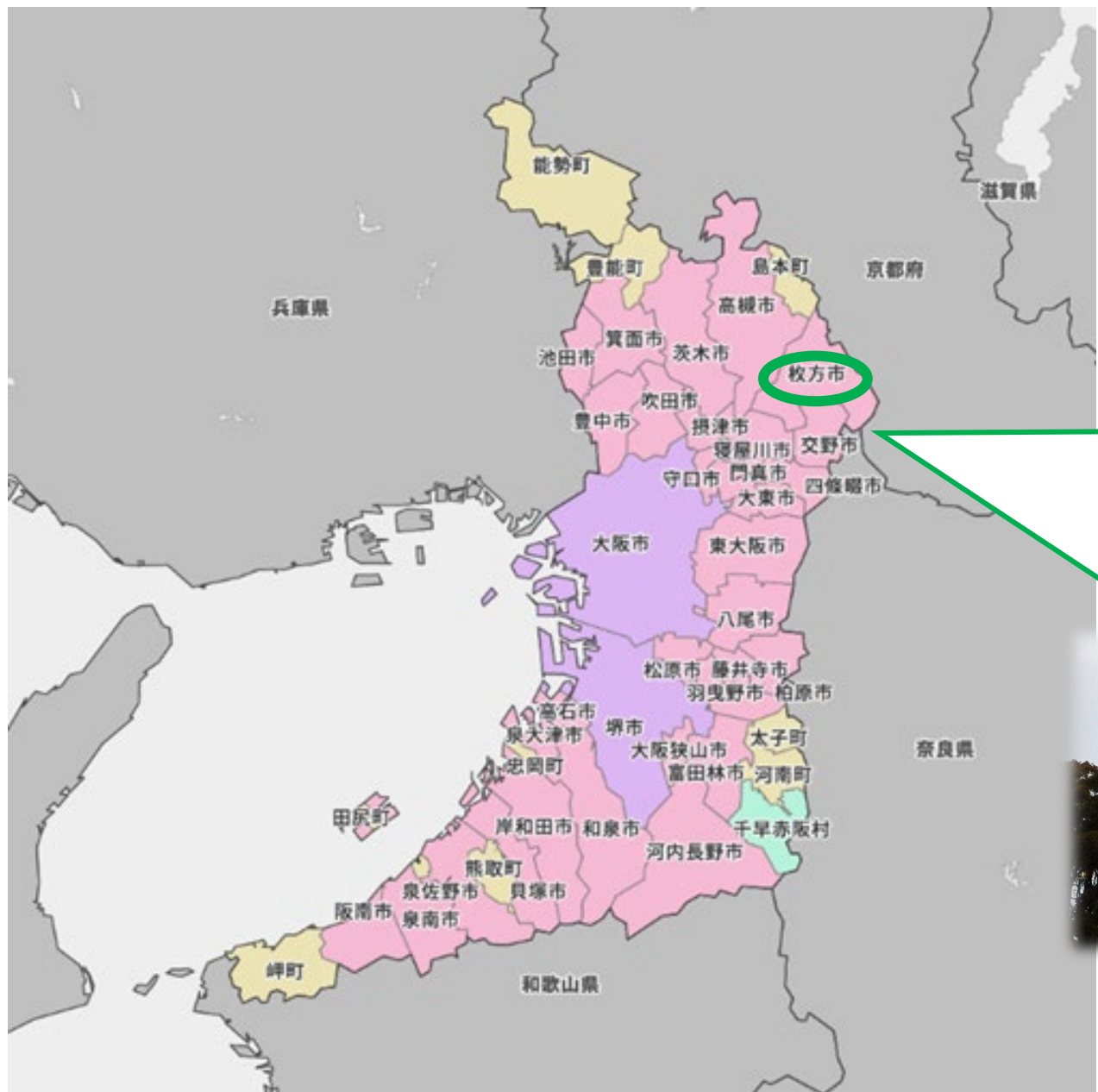
もくじ

1. 枚方市の概要
2. 枚方市のスローガン
3. 架け橋期のカリキュラム開発会議等を含む体制づくり
 - (1) 令和4・5年度
 - (2) 令和6年度
4. 令和6年度の成果と課題（アンケート結果から）
5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス
 - (1) 概要
 - (2) クローバー図の誕生
 - (3) 5C+1の誕生
 - (4) 5C+1の活用
 - (5) 枚方版架け橋コンパス
6. 先生の指導・援助及び子どもの学びの変化
7. 持続可能な取り組みとするための工夫
8. 今後の展望



事務局による
寸劇です

1. 枚方市の概要



2. 枚方市のスローガン

幼保小連携の推進により、教育の質の向上が確実に図られるよう、小学校敷地内にある協力園における研究の経過や研修内容の好事例を市内の他園・他校へ随時配信・共有し、内容を磨き上げていくことで、**どの地域においても活用可能なカリキュラムを開発**する。「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業 調査研究課題」より

モデル校区から
取組をスタート!

～架け橋期の子どもたちの育ちを伝えよう、
広めよう、みんなで支えよう!～

各校区の取組を広く発信することで
先生たちが必要感ややりがいをもって
活用していけるものとなるように☆



先生たちがワクワクと楽しく進めていける
架け橋プログラム事業をめざして!

※文中における「子供」の表記は、枚方市において「子ども」に統一しているため、以降の全て「子ども」と記載しています。

3. 架け橋期のカリキュラム開発会議等を含む体制づくり(Ⅰ) 令和4・5年度

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
体制	・カリキュラム開発会議をモデル校 校区にて実施(月1回) 公立小 A私立こ A私立保 B公立保 公立幼 A公立保 B私立こ B私立保 「モデル校区の成果を 市内に広げていこう」 互いを知る	・全公立小学校と幼児教育施設をグルーピング ・校区会議が開催できるよう事務局が支援 ・連携担当者連絡会を実施(年3回) ・カリキュラム開発会議を事務局が実施 「モデル学校園から各校区へ」 互いを知り、育てたい 資質・能力を共有	・カリキュラム開発会議を各校区で実施 ・校区会議に事務局が介入、助言 ・連携担当者連絡会を実施(年3回) 「各校区の自走体制を模索」 共通の視点に基づいた、 「架け橋期のカリキュラム (コンパス)」の開発
生じた問題	・カリキュラムをオープンにできない施設 ・相互理解・信頼関係がない ・互いの教育活動を知らない	・幼児教育と小学校教育に隔たりがある ・育てたい資質・能力が共有できていない ・めざす子ども像を共有できていない ・それぞれの施設が自校園での取組を紹介するだけで、話し合えていない	・教育活動の連続性がない ・幼児教育施設間の方針の違いが表出 ・校区で集まる時間の確保が難しい
解決策	・互いをリスペクト ・対話の機会をもつ ・クローバー図 (共通の視点)の誕生 知 徳 【健康で明るい子】 【やさしく思いやりのある子】 【自ら学ぶ子】 【思いやりと責任感】	・クローバー図を活用して視点を合わせて対話 ・相互参観 ・各校区ごとにカリキュラム表を作れるよう、枚方版架け橋期のカリキュラムを作成 クローバー図 カリキュラム表	・交流活動の実施を推奨 ・就学前 横のつながり会議を実施 ・カリキュラムを共同編集できる スプレッドシートを配布 (オンライン上での加筆可)

3. 架け橋期のカリキュラム開発会議等を含む体制づくり (1) 令和4・5年度

【枚方版架け橋期のカリキュラム】

各校区の先生同士が対話を通して、子どもの育ちの連続性を確保する「オリジナルの校区版カリキュラム」を作成するためのベース

[illegible]

3. 架け橋期のカリキュラム開発会議等を含む体制づくり(2) 令和6年度

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
体制	・カリキュラム開発会議をモデル校区にて実施(月1回) 「モデル校区の成果を市内に広げていこう」 互いを知る	・全公立小学校と幼児教育施設をグループピング ・校区会議が開催できるよう事務局が支援 ・連携担当者連絡会を実施(年3回) ・カリキュラム開発会議を事務局が実施 「モデル学校園から各校区へ」 互いを知り、育てたい 資質・能力を共有	・カリキュラム開発会議を各校区で実施 ・校区会議に事務局が介入、助言 ・連携担当者連絡会を実施(年3回) 「各校区の自走体制を模索」 共通の視点に基づいた、 「架け橋期のカリキュラム (コンパス)」の開発
生じた問題	・カリキュラムをオープンにできない施設 ・相互理解・信頼関係がない ・互いの教育活動を知らない	・幼児教育と小学校教育に隔たりがある ・育てたい資質・能力が共有できていない ・めざす子ども像を共有できていない ・それぞれの施設が自校園での取組を紹介するだけで、話し合えていない	・教育活動の連続性がない ・幼児教育施設間の方針の違いが表出 ・校区で集まる時間の確保が難しい
解決策	・互いをリスペクト ・対話の機会をもつ ・クローバー図 (共通の視点)の誕生 	・クローバー図を活用して視点を合わせて対話 ・相互参観 ・各校区ごとにカリキュラム表を作れるよう、枚方版架け橋期のカリキュラムを作成 	・交流活動の実施を推奨 ・就学前 横のつながり会議を実施 ・カリキュラムを共同編集できる スプレッドシートを配布 (オンライン上での加筆可)

4. 令和6年度の成果と課題（アンケート結果から）

成果

子どもの育ちの連続性を意識した交流
子どもも大人も交流が活発に！
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の認知度がアップ！

要望

相互参観の拡大
職員間（担当者）の連携会議体制の推進

課題

時間の確保
幼児教育施設同士の交流の継続
小学校同士、校内での横のつながり

5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス (1) 概要

【カリキュラム(コンパス)作成のねらい】

各校区の先生同士が対話を通して、オリジナルの校区版カリキュラム(コンパス)を作成し、クローバー図を活用した共通の視点で語り合うことで、子どもの育ちの連続性を確保する。

子どもを真ん中にした対話を通しての気づきを
カリキュラムに反映していこう

架け橋期を
コンテンツベースではなく
コンピテンシーベースで
つなげよう

コンパスという名称から、
先生たちの工夫が積み重
なり続けてほしいなあ

カリキュラム表



コンパス



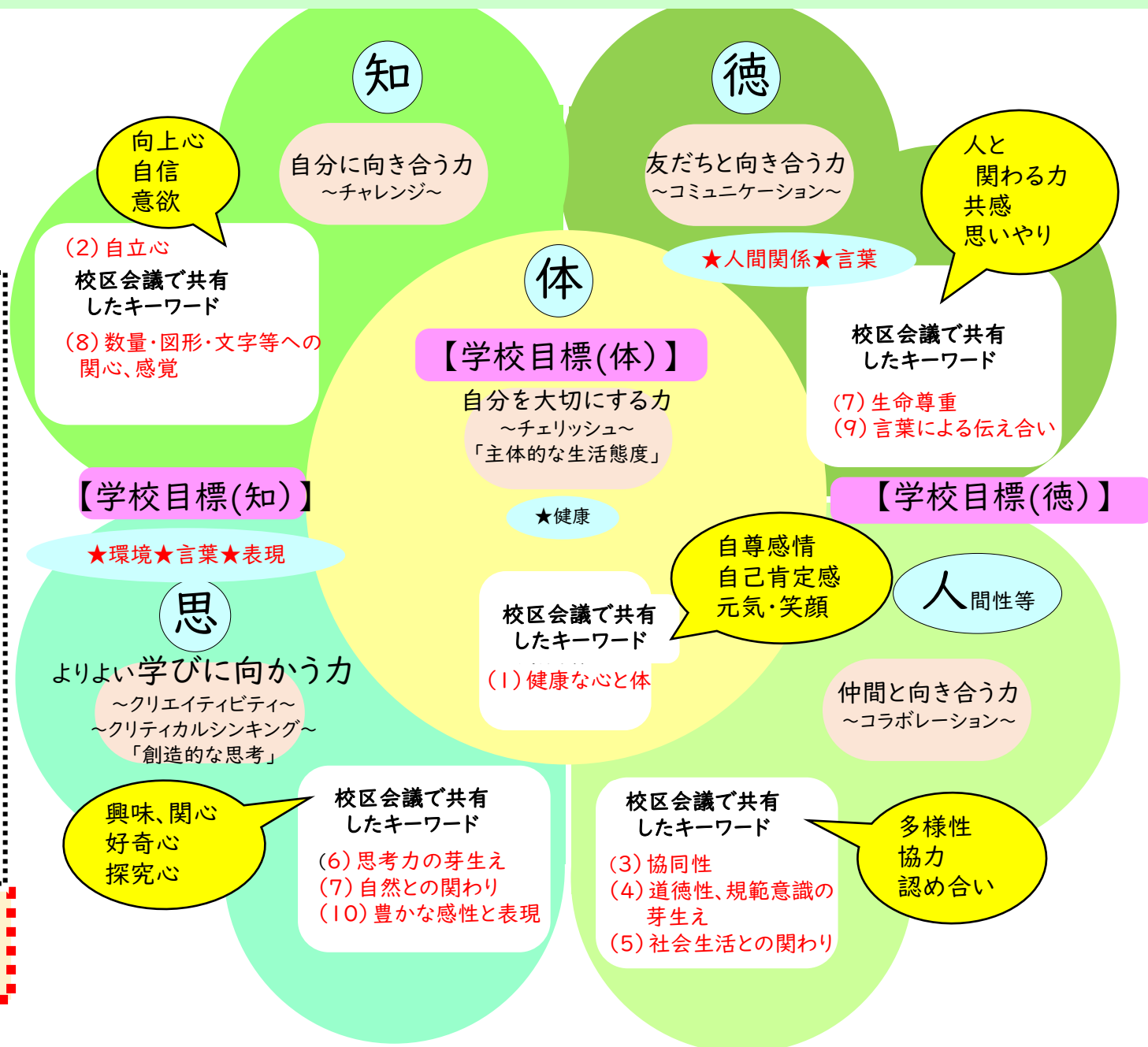
5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス (2) クローバー図の誕生

モデル校区の
対話から!

誕生!!

- ① 3つの資質・能力(知・思・人)
- ② 生きる力(知・徳・体)
- ③ 非認知能力(学びに向かう力・人間性等)
- ④ 5領域(★)
- ⑤ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
(1)~(10)
- ⑥ ~5C+チェリッシュ~

3+10=5 (クローバー図)



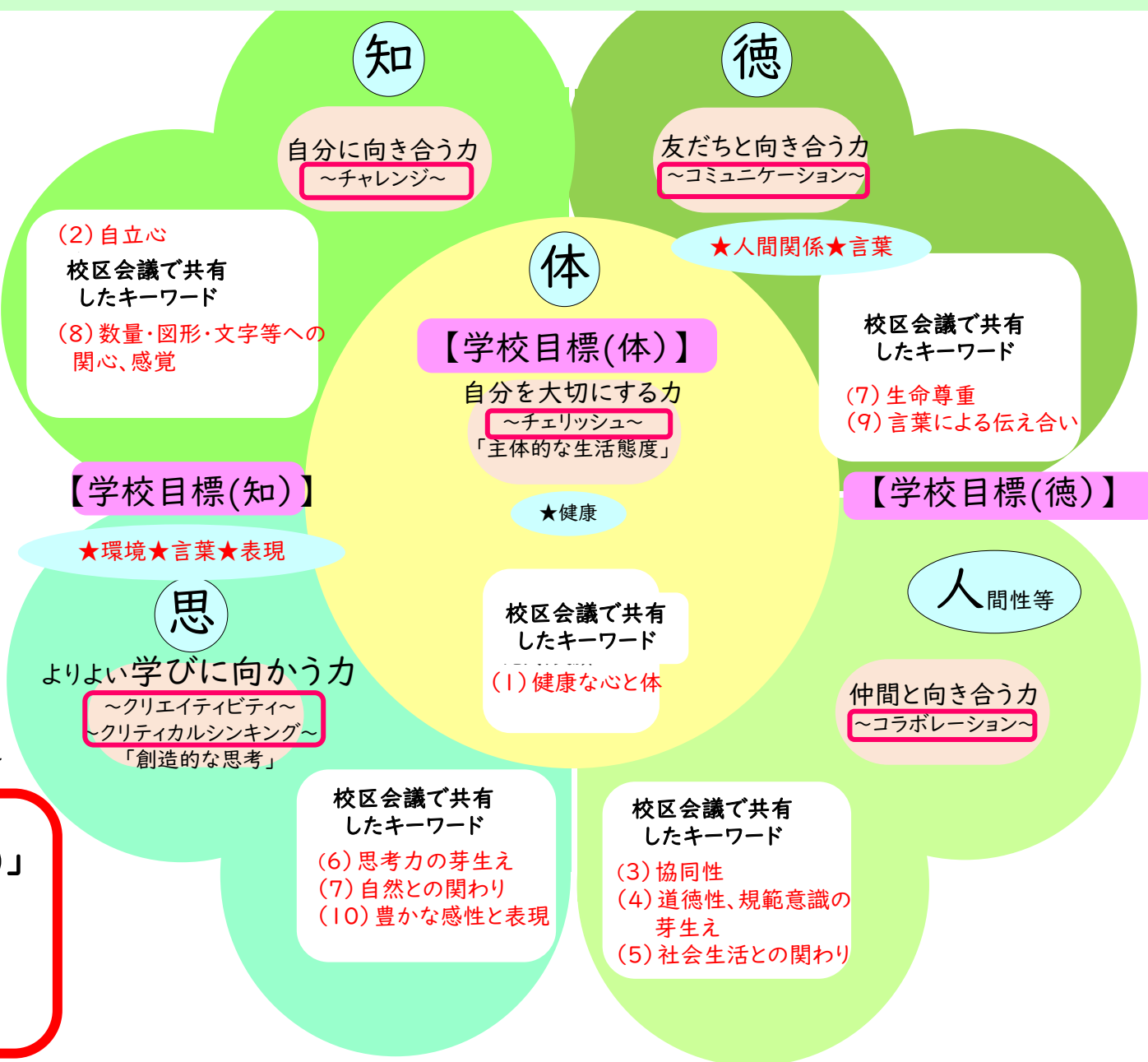
5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス (3) 5C+1の誕生

- ①3つの資質・能力(知・思・人)
- ②生きる力(知・徳・体)
- ③非認知能力(学びに向かう力・人間性)
- ④5領域(★)
- ⑤幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (1)～(10)
- ⑥～5C+チェリッシュ～ **5C+1**

枚方市で育てたい
共通の視点(資質・能力)

枚方市で育てたい資質・能力 ~枚方版ICT教育モデル~

5C(「チャレンジ(粘り強さ)」「コミュニケーション(対話)」「コラボレーション(協働)」「クリティカルシンキング(批判的思考力)」「クリエイティビティ(創造)」)の視点

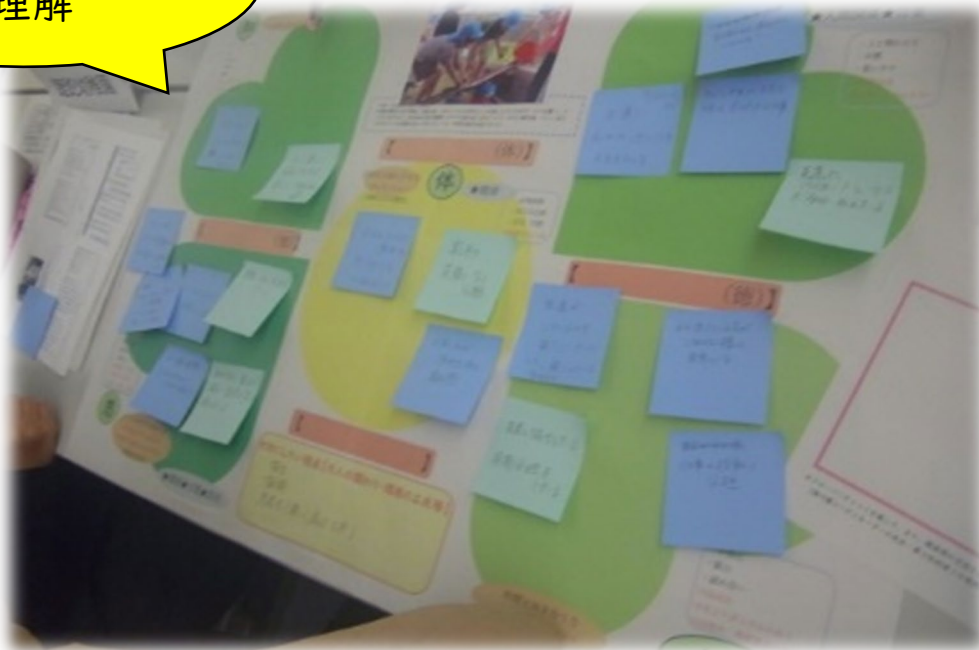


5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス (4) 5C+Iの活用

各校区でリスペクト
しながら相互理解

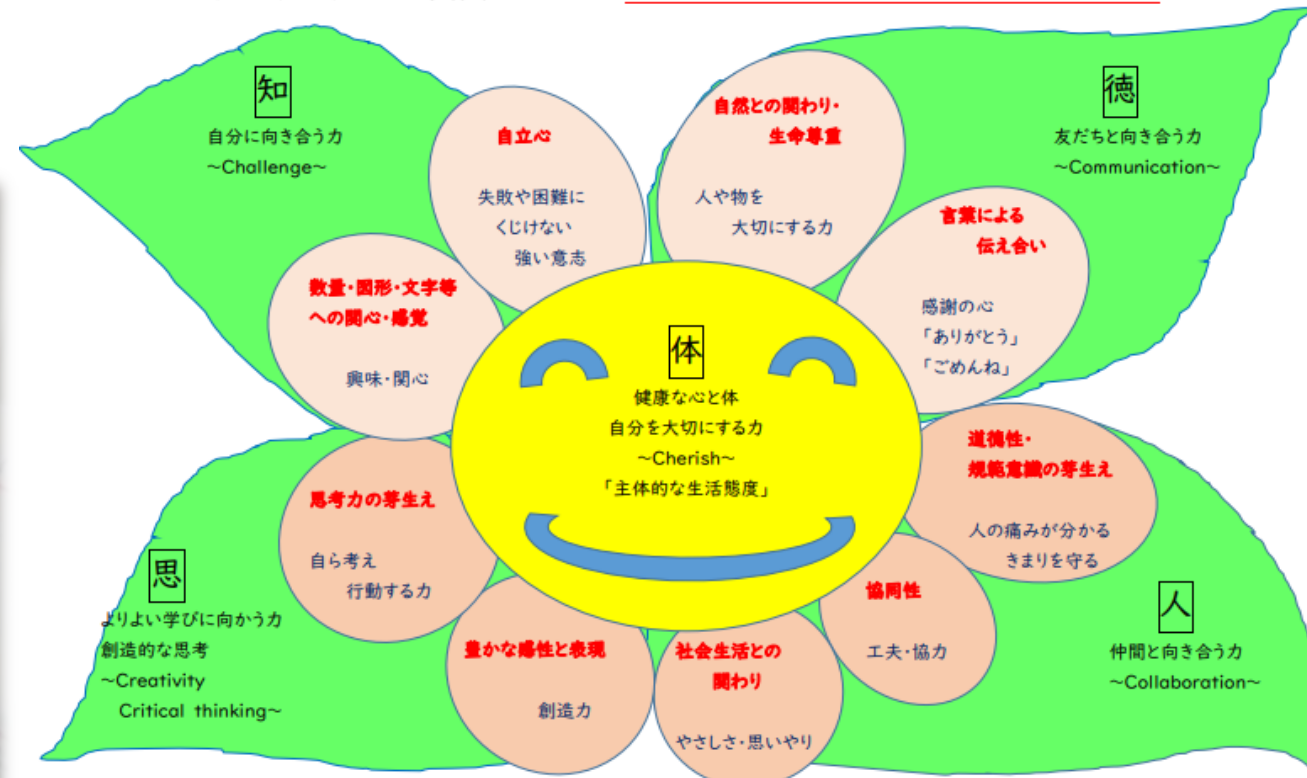


5C+Iの視点で
子ども理解



校区オリジナルの
共通の視点

●くずは・船橋地域で育みたい資質・能力 ⇒ 体験することを通して、自ら考え行動する力



★大切にしたい視点: 思考力の芽生えを大切に、自尊感情や自己肯定感を高める。

18歳

知識及び技能

学びに向かう力、人間性等

思考力、判断力、表現力等

枚方市の教育理念

夢と志を持ち、可能性に挑戦する”枚方の子ども”

コミュニケーション
友だちと向き合う力

コラボレーション
仲間と向き合う力

チャレンジ
自分に向き合う力

クリエイティビティ
よりよい学びに向かう力
クリティカルシンキング

架け橋期

生きる・遊ぶ・学ぶことが楽しい!

友だち・仲間と一緒にによりよく生きたい・遊びたい・学びたい!



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

5領域を総合的に学んでいく姿<心情・意欲・態度>

0歳

生命の保持

(生命の尊さに対する感性・健康で安全な生活を送る習慣・態度)

チェリッシュ

自分を大切にする力

情緒の安定

(自己肯定感・他人を大切にする心)

5. 架け橋期のカリキュラムの概要及び作成プロセス (5) 枚方版架け橋コンパス

校区オリジナルの コンパス

A小版 架け橋コンパス
～スタート期を大切に進められている～

[illegible]

複数小版 架け橋コンパス
～QRコードで詳細な情報にアクセス～

B小版 架け橋コンパス
～育ちの連続性がみえるコンパスになっている～

[illegible]

特に大切にしたい
活動内容

活動内容

6. 先生の指導・援助及び子どもの学びの変化

スタートカリキュラムの変容について
～動画で紹介します～



枚方市マスコット
ひこぼしくん

6. 先生の指導・援助及び子どもの学びの変化

先生の変容	声掛けの変化（これしましょう→どうしたい？） 与える側から引き出す側へ 子どもに委ねられる 何もできない1年生→結構できるぞ1年生 先生主導ではなく、子どもが主役の授業・活動に 自園所のカリキュラムや保育を見直すようになった (モデル) 架け橋プログラムの取組が探究的な学びの素地作りに (モデル) 出来栄え重視→そこに向かう過程を大切に (モデル) 遊びから学ぶ子どもの姿を見取れるようになる
子どもたちの変化	【ドキドキワクワク】 慣れ親しんだ環境、道具で思う存分遊ぶことができる 遊びを通して願いや思いが出せる教室へ 遊びを通して友だちと関わる 周りが何をしているのか気になる 明日したいことをイメージできる 周りを見て学ぶ、見て真似る、見て試す (モデル)「うりこタイム」が学校へ行く楽しみの一つに！

※「うりこタイム」とは、香里（こうり）小学校の「こうり」をもじると「うりこ」になること、香里小学校にある裏山が「うりこ山」と呼ばれ、子どもたちに親しまれていることから命名した、スタートカリキュラムの通称。

7. 持続可能な取り組みとするための工夫

- ・枚方独自の校区割での取り組みを継続
- ・横のつながり会議の拡充
- ・担当者連絡会を今後も年3回開催
- ・ニーズがあったところへの架け橋事務局支援
⇒担当課を広げていくことで、校区のニーズに
ストレートに対応
- ・好事例の発信
- ・架け橋コーディネーター的な役割を担う人材育成



8. 今後の展望



- ・架け橋プログラムの取組を**立ち消えさせない!**
- ・より幼児・児童がワクワクし、学びにつながる交流活動を**先生方が創り上げられる**ようにする!
- ・枚方市全体の、**生活科の授業の質の向上!**
- ・**総合的な学習の時間につながる**架け橋プログラムの取組という見せ方の工夫!
- ・幼保こ小中が交流し、それぞれの保育や教育を互いに理解する体制づくり!
- ・客観的根拠に基づいたアセスメントを行い、成果を示せるようにする!
- ・子どもをまるっと肯定的に理解できる、子どもの声を聴こうとすることができるなど、**大人の意識変容**につなげたい!
- ・架け橋期において**すべての子どもの学びの基盤を育てる**のだという意識付け!
- ・**「子ども」を主語**にして連携し高めあう恒常的な仕組みづくりを校区が構築する!



ご清聴ありがとうございました。



先生たちがワクワクと楽しく進めていける
架け橋プログラム事業をめざして！

枚方市マスコット
ひこぼしくん